



## 學會彙報

雑誌名	漢文學會々報
巻	14
ページ	59-64
発行年	1953-06-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00146402">http://hdl.handle.net/2241/00146402</a>

# 學會彙報

○昭和二十六年年度漢文学会総会次第

日時 六月二十四日午前九時開始

場所 東京教育大学E四〇三教室

## △研究発表之部▽

一、文字学上よ本邦旧鈔古文孝経録古定に就て  
り見たる

都立八高 青木木兎哉 (20)

一、関于董西廂的異文

研究生 飯田 吉郎 (19)

一、墨子に關する一考察

信州大学 千原 勝美 (17)

一、史記正義版本考

研究生 水沢 利忠 (16)

一、詩と史実(作詩時代考)

教育大学 鈴木 修次 (16)

一、「経」解釈史(第一期)研究序説

北海道大学 加賀 栄治 (16)

一、史記に現はれた漢代礼制の理念

静岡大学 伊藤 文定 (13)

一、薩南学派の祖「桂菴」について

鹿児島大学 裏 善一郎 (9)

一、黄老思想の成立について

教育大学 今井宇三郎 (8)

一、僧養堂の文学観「禪文兼全」について

熊本女子大学 古沢未知男 (8)

一、紀州藩の明律学

和歌山大学 松下 忠 (7)

一、漢文学習法の革新と教育職員免許法關係法

福井大学 寺岡 龍舎 (6)

規の改正すべき点について

福井大学 寺岡 龍舎 (6)

一、教材としての論語について

秋田大学 田口福司郎 (客)

## △総会之部▽

一、開会之辞

司会 今井委員  
小林委員

一、議事

一、議長選出 竹田会長當選

一、會計報告

内野委員

一、庶務報告

小沢・今井委員

一、会則改正準備委員選出ノ件

今井委員

一、竹田会長挨拶

一、懇談会

一、閉会之辞

内野委員

○昭和二十七年年度漢文学会総会次第

日時 六月二十二日午前九時開始

場所 東京教育大学E四〇三教室

## △研究発表之部▽

一、緯書に見える黄帝について

研究生 中村 璋八 (21)

一、史記に見える本紀以外の黄帝について

教育大学 安居 香山 (客)

一、杜詩重言小論

研究生 谷川 英則 (20)

一、略韻の韻母について

研究生 坂井 健一 (20)

一、墨子兵技巧考

信州大学 千原 勝美 (17)

一、毛傳と爾雅

教育大学 鈴木 修次 (16)

一、漢文法の規定詞と判断詞について

教育大学 牛島 徳次 (11)

一、漢文教育の理念

福井大学 寺岡 龍舎 (6)

一、高校漢文教育の動向について

教育大学 尾関富太郎 (8)

## △総会之部▽

一、開会之辞

司会 鎌田委員  
今井委員

一、議事

一、議長選出 田波又男氏当選

一、庶務、会計報告 今井委員

一、新会則審議 可決 発效本日ヨリ

一、委員改選ノ結果 小林信明・飯田吉郎・鎌田正・河野六郎ノ四氏当選

一、竹田前会長挨拶

一、内野現会長挨拶

一、懇談会 諸橋先生挨拶

一、閉会之辞

小林委員

本年度學會委員

委員長 今井宇三郎

事務分掌

庶務 河野六郎・今井宇三郎・大竹修一

會計 鎌田正・安居香山・鈴木みに枝

研究一、小林信明・鈴木修次・大橋定雄

二、飯田吉郎・緒形暢夫・棚木光男・中野達

○卒業論文発表会

——二六・九・二八(金)——

一、史記における人称代名詞の諸問題

箕輪昭二君

一、東坡雜考——特に文学意識を中心として——

上木永生君

○卒業論文発表会

——九・二九(土)——

一、老子の研究

広田実子君

一、古文籙文に於ける二、三の問題

牧野実子君

一、詩経解釈と国風篇に於ける人間性

小林信利君

一、西晋道家の性格

草野成虎君

○秋季講演会 ——十一・二十(火)——

一、連語について

一、柳宗元の思想 京大教授 谷川英則氏

○卒業論文発表会 ——二七・七・四(金)——

一、李長吉詩試論

石川一成君

一、白楽天「諷諭」の詩

井上正君

一、韋応物研究序説

大坂泰君

一、懷風藻の詩形とその憑拠

大竹修一君

一、先秦諸家の勝敗論について

加藤雅春君

一、人物志管見 ——その成立過程と年代

金子泰三君

一、魯迅と革命文学

上林清曉君

一、荀子性悪説研究

鈴木総一君

一、遊仙窟の言語研究 ——兒について

須藤勝助君

一、「來」から「來着」へ

滝川格子君

一、明末清初に於ける一思想——王夫子の識知論

原田悦穂君

一、揚雄の人間性について

山根五一君

○新制卒業論文発表会 ——二八・二・二〇(金)——

一、詩経の音韻構成について

太田実君

一、五音集韻考

小松茂君

一、史記に於ける「矣」と「也」とについて ——特に中国語法研究方法試論として——

佐々木良君

一、王引之の虚字論考

谷津秀勝君

一、鮑照詩研究 ——特にその樂府体を中心として

村主幸雄君

一、詩人杜甫 ——一時期に時ける人間杜甫の研究

松田稔君

一、陶淵明詩語彙考

毛利順男君

○同右 ——二・二一(土)——

一、平家物語漢文出典考

井関義久君

一、藤原頼長の経学再興政策

土屋裕君

- 一、董仲舒性説考
- 一、春秋公羊研究序説
- 一、揚子法言
- 一、荀子の礼説について
- 一、韓非子の説客観

### 卒業論文題一覽表

墨子引經相を論じて先秦時代に行はれたる  
或る派古經書の性質系統に及ぶ  
論原始儒教之社会嚮導概念推移  
左傳礼説  
周易の研究  
我國の律令に及ぼしたる支那文化の影響  
楚辭の研究  
詩と楽—文章としての詩より語として  
易学史  
孝經の研究  
荀子と經学との關係  
「先秦並に漢代經学上に於ける荀子の地位」  
孔子家語の研究  
日本に残存せる支那古韻の研究  
漢代教育制度攷  
常州学論語説  
中庸の研究  
易の研究  
漢代春秋公羊学の研究

石原弘也君	大橋定雄君	西浜義明君	野口三郎君	福田芳典君	内野熊一郎	小林信明	田波又男	小島政雄	市川本太郎	上島一夫	渡辺末吾	小沢文四郎	三井宇一郎	竹倉二郎	相徳定芳	飯田利行	杉本重雄	福家重弘	岡阪猛雄	石島快隆	鎌田正
-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-----

中国現代詩史概観  
喪服制の研究  
莊子の研究  
春秋左氏傳の研究  
淮南子の研究  
日本漢文教育論  
繫辭傳考  
六朝より唐宋にいたる仏教と儒教の交渉について  
朱子に於いて大成したる人性説  
楚辭の研究  
陸象山の人物及その學説  
儒教における五倫説  
詩經の成立と學説の展開  
五七言詩發達考  
日本經学史  
朱子の研究  
春秋公羊傳及公羊学の研究  
論語に関する研究  
儒教より見た水戸学の研究  
周易占筮考  
春秋穀梁傳の研究  
十翼の研究「主として成立年代について」  
宗廟祭祀の研究  
支那言語学史  
儒教に於ける道について  
先秦時代に於ける正名思想  
我が國に於ける易学とその影響

倉田貞美	下山田光平	寺岡童含	米山寅太郎	米山尙之	高木 仡	上原好一	植田 袖	坂柳董麟	上肥輝雄	吉田元定	松下 忠	内藤由己	陳蔡煉昌	尾関富太郎	今井宇三郎	佐川 修	佐田弘道	古澤未知男	田中聖一	富山 昇	雨宮重治	荒井 榮	石山興武	裏善一郎	大島 一	鈴木陸雄
------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------

書經の研究：大誓洪範二篇を中心とする  
 識緯研究  
 爾雅研究序説  
 老子研究  
 胡適之論  
 「詩經」表現形式の研究  
 梁任公論  
 黄宗羲研究  
 支那近世白話小説の語法に就いて  
 春秋研究：春秋思想の史的発展  
 報徳学の儒教的考察  
 性説研究序説  
 鄭玄学考  
 周禮禮記を中心として観たる上代の教育  
 墨学研究  
 南朝梁代の政治と學術  
 張橫梁研究  
 支那小説の源流に関する攷察  
 王陽明思想の哲學的性格  
 新樂府の成立と白楽天の思想  
 魏晉南北朝の老莊思想  
 韓非子に於ける道家思想  
 儒教が國教になるまで  
 王肅学及鄭王異同考  
 牟子理惑論研究  
 法言研究  
 老子の思想

須藤 功	須季の実学と水戸の実学	松沢 章
渡辺 弘一	死亡	並河 達夫
岩佐 貫三	死亡	上山 環
高橋 俊英	漢初淮南学考	相川 勝衛
仲井 眞盛	呂覽成立の研究	坂本 右
荒木 雄二	管子經言の研究	中村 章太郎
市川 憲一	先秦に於ける荀子の特殊的位置	長谷川 一雄
市木 武雄	韓非子の研究	横山 憲吾
牛島 徳次	先秦法家思想の研究	但野 晋
内田 竜	ナシ	勝 又昌
大木 春基	ナシ	高瀬 允
栗原 喜男	ナシ	畑 見実
月洞 讓	ナシ	廣見 誼二
新美 保秀	ナシ	堀之内 光夫
池田 敬	爾雅匡名補証	加賀 榮治
笠井 幸	王子の学について	木内 勇
川上 儀三	楊朱の研究	小林 実
倉西 藤兵衛	禮記月令的研究	志賀 一朗
鈴木 一	鄭注論語と孔注論語	熊谷 尙夫
橋本 礼一	社之原初的性格与其展開	鈴木 修次
寺尾 達郎	紅樓夢的研究——人間性の解明を中心として	島山 一郎
相原 米三	緊辭傳と其の道の研究	平野 賢郎
伊藤 文定	——純粹經驗の場に立脚せる緊辭傳の一解釈——	水沢 利忠
清谷 宗曉	春秋学研究序説	井口 幾次郎
藤川 正教	墨子思想研究	加藤 清雄
佐藤 憲三	上代郊禮考	

現代華語の文字と音節の關係についての研究  
 文学革命の本質とその源流  
 楚辭の表現 — 離騷を中心とする—  
 礼注に現われたる三家詩研究  
 墨子成書考  
 朱子の詩經学  
 孔子思想之展開  
 三民主義の歴史的展開と中国傳統の精神  
 周易卜筮の研究  
 管子考  
 康熙帝の圖書編纂事業  
 白居易 論じて白氏文集の傳來より平安文学史の  
 影響に及ぶ  
 中国文字論 — 中国文字之原始及其表意性—  
 古代田制の研究  
 中国 古代夷蠻戎狄思想考  
 中庸の研究  
 張横渠之研究  
 老子思想体系  
 中国に於ける家族と社会  
 西廂記の文章  
 宋学研究序説  
 魏晋文学の傾向と清談  
 山海經を中心とする古代の山嶽祭祀  
 詞の生成過程について  
 中国上代思想史に於ける股的性格  
 中国社会における科学の成立

石川重雄 17  
 木島清  
 田中 信之  
 高梨 実二  
 千原 勝美  
 塚本 正  
 広畑 輔雄  
 松本 稔  
 遠藤 一郎 18  
 緒形 暢夫  
 古賀 周作  
 猿渡 是達  
 志村 和久  
 長谷川 節三  
 細見 宏  
 宮沢 康造  
 水沢 竜夫  
 深沢 厚吉  
 阿部 邦義 19  
 飯田 吉郎  
 牛山 正雄  
 佐藤 信久  
 進藤 善之  
 池沢 正夫 20  
 泉 隆式  
 大石 豊

周易に於ける人間理想像  
 中国語音研究 — 特に顏氏家訓音辭篇を中心として  
 杜詩形態論  
 中国書道史上に於ける王羲之の地位  
 陶淵明の研究  
 説文解字学源流考  
 唐宋傳奇小説所見  
 先秦名家の研究  
 中論と莊子  
 文心雕龍に於ける文学意識  
 土佐に於ける朱子学の源流とその展開  
 水滸傳研究  
 周濂溪の性命説  
 五四運動研究  
 魯迅文芸の研究  
 世説新語の語法について  
 論語傳流考(三論を主として)  
 緯書の成立  
 中国古代音楽研究  
 物祖来の学説研究  
 宋詩の研究 — 特に蘇東坡を中心として—  
 西晋老莊思想家の性格  
 王陽明の思想  
 詩經に於ける人間性  
 殷代に於ける都邑と社会生産状態  
 老子の研究  
 説文研究 — 特に古文籀文篆文の相関々係について

木村郁二郎  
 坂井 健一  
 谷川 英則  
 塚田 清策  
 中川 太郎  
 青木 木寛哉  
 内山 知也  
 山本 哲夫  
 柳 俊一  
 石崎 精亮 21  
 大野 知二  
 狩野 直助  
 功刀 正  
 小寺 和夫  
 真田 光雄  
 神保 侃司  
 戸田 八藏  
 中村 璋八  
 本田 義幸  
 渡辺 一雄  
 上木 永生 22  
 草野 成虎  
 功刀 敏子  
 小林 信利  
 神藤 末吉  
 広田 実子  
 牧野 実子

史記に於ける人稱代名詞の諸問題

李長吉研究

白樂天研究

韋応物研究序説

本邦上代漢詩研究

人物志の人間学的考察

魯迅文學の研究

先秦諸家の勝敗論に就いて

荀子の性説とその背景

「來」から「來着」へ

識知論

遊仙窟論考

楊雄の研究

董仲舒性説考

平家物語漢文出典攷

詩経音韻構成論

春秋公卒学研究序説

五音集韻攷

史記に於ける「也」と「矣」について——  
特に中国語研究の方法試論として

鮑照詩研究——特にその樂府体を中心として——

台記を通して見た藤原頼長の學問

法言に見られる楊雄の學説

荀子の礼説について

韓非子研究

詩人杜甫——一時期に於ける人間杜甫の研究——

箕輪 昭二

石川 一成<sup>23</sup>

井上 正泰

大坂 泰

金子 修一

上林 清晃

加藤 雅春

鈴木 総一

滝川 格子

原田 悦穂

須藤 勝助

山根 五一

石原 弘也<sup>新1</sup>

井関 義久

太田 実

大橋 定雄

小松 拔

佐々木 良

村主 幸雄

土屋 裕

西浜 義明

野口 典郎

福田 芳典

松田 稔

陶淵明詩研究

王引之虚字論考

思想よりみたる漱石の漢詩

毛利 順男

谷津 秀勝

吉儀 寿雄

### 東京教育大学漢文学会々則

一、本会は東京教育大学漢文学会と称し、事務所を東京教育大学東洋文学研究室に置く

二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図るのが目的である

三、本会の会員は左の通りである

1 東京教育大学東洋文学及び東京文理科大学・東京高等師範学校漢文学関係教官（退官者を含む）

2 東京教育大学東洋文学専攻学生及び卒業生並に東京文理科大学漢文学専攻卒業生

3 其の他入会を希望する者

四、本会の主な事業は左の通りである

- 1 総会 年一回
- 2 例会 年約四回
- 3 会報及び会員名簿の発行
- 4 其の他必要な事項

五、本会の役員は左の通りである

会長 一名 委員 若干名

六、会長は本会を代表し委員と共に運営に当る

委員は委員会を組織し会の研究会計庶務の業務を分担する

七、会長には主任教授を推す

委員は東京教育大学学生中から五名其の他から若干名（一般会員より四名及び東京教育大学助手）を委員の互選（学生委員は学生の互選）によつて選挙する。その任期は二年（学生委員は一年）とする。但し重任は差し支えなく

八、会員は会費年額参百円、但し学生は半額を納める

九、本会会則の変更は委員の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならぬ